NDS 環 境 だ よ り Vol.22

※『環境だより』とは、 大阪エヌデーエスの環境への取り組みの一環として、環境について社外に好影響を及ぼすことを目的とし、社員、パートナーの皆様のご家族向けに作成したパンフレットです。

今回のテーマ ：
「　2023年の異常気象について　」

２０２３年の夏は非常に暑かった記憶があります。
実際に気象庁の発表では2023年の天候について、 日本の年平均気温
および日本近海の平均海面水温はいずれも統計開始以来、最も高い値に
なったとのことです。
また、日本だけでなく世界的にも猛暑で、WMO（世界気象機関）の
発表では、2023年の世界の平均気温が観測史上最も高かったとのことです。

この異常気象は私たちの生活にも大きく影響しており、特に気になる
影響として物価高が挙げられます。
世界的な異常気象によって熱波や干ばつ、大規模な洪水などが多発し、
農作物の不作につながっています。農作物の不作はそのまま食料価格に
大きな影響を与えてしまいます。

SDGsの目標にも「目標13：気候変動に具体的な対策を」が挙げられており、
具体的な数字として、平均気温が１度上昇するごとに、穀物の収量は
約５％ずつ低下すると言われています。この異常気象が続くと、
今後も農作物への悪影響は続くと考えられます。

この気候変動（異常気象）に対して私たち個人でできる対応として、
国連では「10の行動」を紹介しています。
私たちが気候変動（異常気象）や農作物の不作を直接解決することは
難しいですが、各個人でできる範囲の対応することが重要と思います。

～～～１０の行動～～～
・家庭で節電する
・徒歩や自転車で移動する、または公共交通機関を利用する
・肉や乳製品を減らして野菜をもっと多く食べる
・長距離の移動手段を考える
・廃棄食品を減らす
・リデュース、リユース、リペア、リサイクルを活用する
・家庭のエネルギー源を再生可能エネルギーに替える
・電気自動車に乗り換える
・環境に配慮した製品を選ぶ
・声を上げる

EMSジャーナルのコラム紹介

毎月1回発行される社内メールマガジンの『EMSジャーナル』では、社員が
持ち回りで寄稿するコラム欄があり、環境に関連するさまざまな話題が掲載
されます。そんな『EMSジャーナル』のコラムを、いくつか紹介します。
今年度のテーマは「SDGs」「サステナブルな社会へ向けた行動」です。

ＥＭＳジャーナル　　Ｎｏ．２１２　　２３．０５．０９発行

ラベルレスボトルという選択肢
目標 12：つくる責任 つかう責任
～ from 11Gr.（N. Ｈさん執筆）

SDGsの達成目標の中でも特に身近なプラスチック削減のために出来る
取り組みについてご紹介します。皆さんは「ラベルレスボトル」を見かけたり、
購入したことはあるでしょうか。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」の
重要課題であるプラスチック削減のための取り組みのひとつとなっているのが
「ラベルレスボトル」です。

私は最近になって初めてコンビニエンスストアでラベルレスボトルを見かけて
購入しました。法定表示の関係で通販でのケース売りが主流でしたが、
最近ではタックシールを活用したり、ボトルに直接リサイクルマークが
刻印された商品の単品販売も増えてきたようです。ペットボトル商品は
ボトルだけでなくラベルにもプラスチックが使われているため、プラスチック
資源の節約に繋がります。また、ラベルの分別の手間が省けることで
ペットボトルのゴミ捨ても簡単になり、それによってリサイクルが進む、
という好循環が生まれます。

現在、様々な企業がラベルレスボトルの販売を進めています。
例えば大手飲料メーカS社では、従来のペットボトルと同じ素材を使用しながら、
独自の技術によってボトルに直接印刷することができるラベルレスボトルを
開発し、環境負荷を低減することを目指しています。
C社でも、ペットボトルに直接印刷することでラベルを貼ることなく
商品を提供しており、2025年までに全てのペットボトル商品にサスティナブル
素材を使用し、2030年までに全てのペットボトル商品を100%サスティナブル
素材に切り替えることを目指しています。

普段の生活の中で、今すぐにペットボトルの使用をゼロにすることはなかなか
難しいことです。しかし、様々な企業がプラスチック削減のために環境に
優しい取り組みを進めているように、私たちもペットボトルの商品を
購入する際はラベルレスボトルという選択肢があることを思い出して
プラスチック削減に少しでも貢献出来たら良いのではないかと思います。

アップサイクルでおしゃれにSDGs！
目標 12：つくる責任 つかう責任
～ from 1Gr.（Ｏ．Ｎさん執筆）

皆さんはアップサイクルをご存じでしょうか。

アップサイクルとは、捨てられるはずだった廃棄物や不用物を、デザインなどの力でものの価値を高め、新たな商品に生まれ変わらせることです。

アップサイクルと似た言葉でリメイクがありますが、
リメイクとアップサイクルの違いは、「別の用途に作り替え、付加価値を与える」がポイントです。アップサイクルでは製品に手を加え、
用途や見た目も以前の製品とは異なるものに作り変えられることが多いです。

また、アップサイクルは環境への貢献とともに、サステナブルなファッションやインテリアのトレンドとしても注目されています。
例えば、京都府亀岡市から生まれたアップサイクル製品でパラグライダーをトートバッグにアップサイクルするプロジェクトがあります。
パラグライダーの生地は、より薄く軽く、そしてより丈夫に、高い技術が施されています。さらに、カラーとデザインは様々で個体差が楽しいバッグになっています。

このように、持続可能性への関心の高まりや個々のスタイルや個性を表現する手段として、アップサイクル製品やデザインが人々に魅力的に映ることがあります。

環境にやさしいだけではなく、おしゃれにSDGsを取り入れてみてはいかがでしょうか。

パラグライダーから
アップサイクルされたトートバッグ

楽しくゴミ拾い
目標:11：住み続けられるまちづくりを
目標:14：海の豊かさを守ろう
～ from 4Gr.（Ｆ．Ｍさん執筆）

皆さんは、ゴミのポイ捨てに関してどのように考えていますか？
街を歩いてると、包装袋やタバコの吸い殻、ペットボトルのゴミなどが道端に捨てられているところを目にすると思います。
このようなポイ捨てされたゴミは、排水溝から川に流れ、海洋ゴミになってしまいます。海洋ゴミの7～8割は街からの流出であると言われています。

環境省によると、ゴミのポイ捨て量の調査をしている市町村は約9%、
ポイ捨てに対する条例等を規定している市町村は約62%だといいます。
多くの市町村で、ゴミのポイ捨てについて把握できていないのが現状です。
では、そのような中でゴミのポイ捨て問題に対してどのような取り組みが行われているのでしょうか。
今回、調べてみて面白いと思った取り組みを2点紹介します。

1つ目は「プロギング」というスポーツです。
ジョギングしながらゴミを拾う新しいフィットネスで、固定のルールは無いそうです。まずは、挨拶や準備運動を行い、ジョギングしながらゴミを拾っていきます。この時、お互いに褒めあうことでゴミ拾い感を無くすのがポイントです。「ポジティブな力で足元から世界を変える」という
スローガンで、現在では世界100ヵ国以上で楽しまれているそうです。
日本でも多くの自治体が定期開催しています。

2つ目はゴミ拾いSNSです。
これまでのゴミのポイ捨ての問題は、ネガティブなワードで人々のモラルに訴えかけるものでした。しかし、SNSという特性を活かすことで、
ゴミを拾うという行為を楽しく、人々の繋がりによってモチベーションを保つ工夫がされています。人のモラルに頼るだけでなく、人の輪やつながりを広げて、ゴミ拾いという行為を加速させようとしているのです。

こういった環境問題は「ゴミが落ちていて悲しい」や「ポイ捨てするなんて信じられない」など、ネガティブなワードで発信されることが多いです。
まずは、環境問題に対してネガティブな考えを持つのをやめ、
興味をもつことが大切だと思います。

■編集後記■昨年とは異なりコロナのワードを聞くことが少なくなり、少しホッとしています。
今年もジャーナルの執筆ありがとうございました。ここに紹介しきれなかった分も含め、寄稿内容は参考にしたいと思わせる珠玉の逸品ぞろいです。次年度も継続して発行しますのでご協力をお願いします。

『環境だより』に関するご意見、ご感想がございましたら下記へお寄せください。
ISO委員会：ems@nds-osk.co.jp

編集発行人：ISO委員会
発行年月：2024年3月